

花桃のジャムを作りました

〒244-0002横浜市戸塚区矢部町125
 電話 045-410-7307 FAX 045-410-7308
 E-mail: mail@zenryouji.jp http://www.zenryouji.jp
 発行責任 善了寺 還る家とともに 担当：三根



デイの玄関横でキレイに咲いていた花桃(右写真)、花が散ったあとは、あまり気にかげず、過ごしていたのですが気が付くとたくさんの実をつけていました！

どうすればいいのかよく分からなかったのですが、とりあえず実を収穫です。手に取ってみると、梅ほどではないものの程よい酸味と‘あまーい’香りが！

調べてみると、ジャムが美味しいとの事でしたが、所長三根は待ちきれずにそのまま頂きました～実は少しかためでしたが、味は“桃”そのものです。甘酸っぱくて美味しかった～

そして、デイの皆さんと一緒に花桃のジャムを作りました。



みんなで皮を剥いたのですが、95歳のみす子さんも「どれどれ、貸してみなさい」と手伝ってくれました。デイの皆様の包丁さばき長年の主婦歴で培われたもの。“さすが”の一言に尽きます。

出来上がったジャムはヨーグルトと一緒に

おやついただきました。花桃の香りがちゃんとしていて美味しかったです～



一度きりの人生

デイを約10年ご利用いただいた小柳さんが6月20日に往生されました。終末期になってもデイに通ってくれ、その中で小柳さんとの関わり・ケアは職員のみならず、ご利用の皆様・ボランティアの皆様、多くの方々に支えて頂きました。8年前にデイが5周年を迎える際、ご利用の皆様の戦時体験を聞き書きし冊子にした「ねがい」。この中の小柳さんの聞き書きを紹介させていただきます。

一度きりの人生

小柳千恵子さん
聞き手 吉田彩

小柳千恵子さんは福岡県出身。昔から散歩が大好きで、八十六歳になられる今も健脚で、ちょっときつい坂でもスイスイと歩き、「昔は一里歩いたのよ！」とにこにこ話される。戦争があったころは、福岡県の師範学校を出て小学校の先生として働いていたそうだ。戦争の頃のお話を聞かせてくださいとお願いしたところ、次のように語ってくださった。

・・・戦争がね、ひどい時には学校も休みになるよ、子どもが危ないからね。近くの工場に爆弾が落ちたこともある。戦争が始まる頃、役所の人防壕を掘ってくれたけどね、防空壕の入り口に爆弾が落ちたら中の人みんな死んじゃう、それが一番心配だった。戦争に行く男たちを、「いってらっしゃい、元気で」と送るけどね、帰ってくる人も来ない人もいる。父は郷里を守っていたけど、親戚には戦争に行きつめた人もいたよ。いちばん困ったことは、食べもの。戦争が終わったとき、日本はもう二度と戦争しないと誓った。それが決まったときは、うれしかったよ。

小柳さんが、人生を語るとき、「うれしかった」「よかった」「楽しかった」とよく口にされる。「つらかった」「いやだった」「大変だった」という話はあまりされない。普段も、にこにこ笑いながら、暑い日も寒い日も、「畑に行くの？いつね？今ね？いいよ」とさっと立ち上がり、「手伝うの？これね？いいよ」「それ、やるうか？いいよ」と何でも快く受け入れ、いろいろなことに参加される。「ここはお互い様なのがいいね！」「お風呂に入れてもらって、上げ膳据え膳でいいね」とにこにこ話されて足取り軽く帰って行かれる。

いつだったか、畑でお散歩した帰り道、青空をぼーっと見上げながらベンチで休憩していたとき、いつだって上機嫌でにこにこ過ごされているように見える小柳さんに、ふと尋ねてみたことがある。

「小柳さん、人生の、つらい事ってどうやって乗り越えるの？」

そのときの、小柳さんの答えが今でも心に染み付いている。

「人生はね、まあまあいいものよ。一回きりの人生だから、楽しそうにしてすごすのよ。悲しいことは、人生の参考にするの。悔やみ上戸がいちばんいけない。前をみて、進むのよ。だって、人生か一回しかないからね」

その言葉に、そのとき頭上に広がっていたあおいまっさらな空のように、まさに「悔やみ上戸」な私の心はさあっと開け、すがすがしい気分になり、「そうか、悲しみは、参考に。人生は、一度きり。小柳さんも、そうやって乗り越えてきたんだ。笑って前向きに行けばいいんだ」と心が軽くなった。

それと同時に、「楽しく」ではなく「楽しそうにしてすごす」というところに、決して楽しいことばかりではない長い人生の中で、小柳さんの前に立ちはだかった幾多の出来事を、最終的に乗り越え、前を向いて懸命に生きてきた一人の女性の人生を垣間見たような気がした。

編集後記

西日本豪雨で被災されたすべてのみなさまに、お見舞い申し上げます。一刻も早い復興を念じ申し上げます。

毎日毎日、とても暑いですね。この暑さでは、お仏壇のお花もすぐ枯れてしまいます。先日『ああ、もう枯れそう。また、生け変えなくては！早いから困ります』と言った時、『花を痛めつけちゃうから、あまり沢山生けなくて良いよ』と言われました。『痛めつけちゃうってどう言う事ですか？』『だって、花にも命があるんだよ。すぐだめになってしまうのに、かわいそうだよ』と。その後一瞬、私は言葉を失いました。私の思いと真逆でした。私の中では、せつかく生けたのに、すぐ枯れてしまって、かわいそうなのは、私の方だと思いこんでいました。なんとと言う傲慢な私であるかと気付かせていただきました。すぐに枯れる花の事をかわいそうと見れる視点を持っていなかったです。

ボランティアさん

善了寺に関わってくださっている沢山の方々にデイサービスは日々支えられています。おかげさまで、ご利用者の皆さまと心地よく過ごすことが出来ています。ありがとうございます。

中嶋芳江 中嶋功 安藤信子 竹中秀子
山下トキエ 西岡美都里 朝倉好子
市野和歌子 弓削福子 矢口和子 大金スエ子
秦野雅子 中島雄子 村井ヒテ子 江尻伸子
牛島寛子 橋本淑子 長澤チヨ子 犬塚照夫
松村節子 秦野宣子 梅本忠男 松田良子
森谷ミヨシ 山田ヒロ子 穴山よしお 乾隆子
内田佐知子 吉高友子 小野勝己
小清水寿美子 石井英子 青木智子
竹守良樹 廣島壽子 敬称略